

学校運営協議会の運営状況について

	開催回数	協議事項及び取組の内容	成果	課題	今後の取組
平成19年度指定	東浅川小学校	11回 地域の方々の願いを具体化させる取組として“夏楽校”を実施。 学校組織の一部として、東浅川タイムや読み聞かせに参加し、児童と関わる活動を継続。 東浅川タイム 基礎基本の定着と学習習慣作りを目指す朝学習	昔遊び、乗車マナー、車いす体験、AEDの使い方、戦争体験・すいとんづくり等、学年ごとに豊かな体験学習が実施できた。 計算と漢字の基礎基本を定着させる取り組みや読み聞かせにより児童の主体的な学習意欲を向上させることができた。	地域の人材の確保必要である。	今年度の反省を生かし、学年の発達段階に適した活動を学校運営協議会で探っていく。 教職員とは異なる立場での子供との関わりが充実するよう学校コーディネーターを中心に計画し教育活動に関わっていく。
	第六中学校	10回 「真の学力」向上5カ年計画のうち2年目を迎え、六中生にとって身に付けるべき具体的な学力とその具現化策について協議した。 各種学校評価アンケートにおいてポイントの低い家庭学習に対する取り組みを検討した。 地域総合防災訓練のあり方を検討した。	学校、保護者、地域の立場から中学生に求める「真の学力」について活発に意見交換を行い、いわゆる生きる力のうち課題解決力や問題に対応する力も重要であることが共通認識された。 家庭での自学自習の基本には効果的なノートの取り方があることが共通認識された。 学校運営協議会主催で第5回地域総合防災訓練を実施。	「真の学力」については地域・保護者の中ではいわゆる得点力・成績面としてとらえる向きも強く、学校として求める生きる力の育成に関しては意識が低い。 学習塾・進学塾に通う生徒も多く、家庭学習の定義づけと時間確保については検討の余地がある。 実際に大規模災害が発生した時を想定し、具体的な改善策が必要である。	学校として求める「真の学力」の中心は生きる力であることを学校と保護者・地域が深く共通理解できるよう具体的な取り組みや広報活動が必要である。 のこととも関連して、得点力等の基礎的学力を定着させる方策として家庭学習をとらえ、学校評価アンケートでのポイントがあがる取り組みを推進する。 大規模災害発生時に役立つ訓練内容を取り入れる。
	宮上中学校	13回 学校行事、小中一貫の活動等に参加しながら、学校と地域との連携を図りながら活動することができた。 移動教室の実施については、次年度の業者を決定した。 土曜学習教室や生徒会と学校運営協議会との懇談会など、昨年度から新たに取組んだ活動をさらに深めた。	各行事について、実施要項等の検討を通じて、地域の視点を入れた学校運営につながった。 移動教室の実施方法を再検討し、新たな形での実施へとつなげることができた。 学校運営協議会の委員が生徒の活動と触れる機会がさらに増え、学校の状況を把握することができた。	学校運営協議会の活動について、保護者、地域の方への広報がまだ足りない。多くの保護者が会の存在を知っているが、具体的な内容までは知らない。 学校運営の軸として定着しているが、今後さらに地域の活性化と学校の取組を結びつける必要がある。	学校ホームページや学校だより等を活用して、さらに広報活動を行いながら、学校運営協議会の活動について知ってもらう。 中学生が地域の方と触れ合ったり、地域の方が学校の活動に参加したりする場面をさらに増やす。地域活動の拠点との連携を図る。
平成20年度指定	陶谿小学校	11回 PTA総会時に学校運営協議会の説明とTOYO ACTION5の協力を呼び掛ける。 6月と12月に教員16名と学校運営協議会委員との話し合いを実施し、学力向上の取り組みの評価と、学校評価書の実態把握を行った。 「TOYO ACTION5」基本生活習慣・学習習慣の定着を目指して平成25年度に策定した。	TOYO ACTION5の周知に努め、朝食を食べている児童や学校のことを話す児童は増えた。学力に関する関心は高まりつつあり、学校公開に毎回700人の参加がある。 年2回の教員との意見交換会を開催し、学校運営協議会への教員の参加促進することができた。	特に睡眠時間で課題が見られ、学習用具の忘れ物も減らない。 保護者の育児に関する疑問・質問が多く学校に寄せられており、地域で子育てを支援する体制が取れると、トラブルを未然に防げる。 教員のアンケートに学校運営協議会に協力していないという教員がいる。地域運営学校の教員であるという自覚が必要。 どの教員でも授業の中で地域の力を活用できるよう人材のデータ化が必要。	TOYO ACTION5に「SNSの利用の注意」を追加し、TOYO ACTION6を改定し、さらに保護者・地域に浸透を図る。 主幹教諭を中心に、学校の状況を伝えていく主体者に育成する。 道徳授業地区公開講座での取り組みは継続を強く望んでいるので、発展的に続けていく。
	浅川小学校	11回 Tシャツの販売。児童・教員・保護者・運営協議会委員・PTA役員に販売した。 日本語検定の実施。 授業支援。	Tシャツ販売の利益で、学校備品のサッカーゴールを購入した。 今年度は満点の児童がいて、来年度のパンフレットの模範解答として取り上げられた。 新入生の給食補助からはじまり、問題児童のアシスト、書道、算数、家庭科等に取り組むことができた。	日本語検定の受験者が少ないので、保護者に正しい日本語の使い方を、もっと理解させたい。	浅川中学校の運営協議会との連携をもっと図る。

	開催回数	協議事項及び取組の内容	成果	課題	今後の取組
平成20年度指定	元八王子中学校	12回 地域ボランティアの発掘について相談を行い、人材を確保し、学習支援に充てた。 検定試験の参加を呼びかける案内を配布し、国語・数学・英語の検定を計9回実施。 防災活動の地域との連携を図る方法を相談した。 保護者・地域向けに学校運営協議会だよりを年3回発行。 学校運営協議会とPTA役員との懇談会や教員との懇談会、生徒会との交流会を実施した。 各行事や学校公開時に参加、授業の様子や生徒の様子を観察した。 投書箱の活用を呼びかけた。	生徒の数学の補習学習がスムーズにでき、参加者の学力が向上した。 検定については、小学生や大人の人、延べ100名以上参加し、生徒に学習に対する意識を高めることができた。 授業を参観することや、交流会での情報交換を通して、生徒についての情報を共有したり、教職員の思いを理解できた。 検定を9回実施。 交流会を通して、生徒の思いを理解することができた。	大学生のボランティアの発掘及び学力向上に向けて、保護者への啓発活動を充実させること。 検定実施の支援ボランティアの不足。 災害対策を含め、学校と地域との共通理解を深めること。	保護者に家庭学習の重要性についての啓発活動を行う。学力向上の学習支援を近隣大学の大学生にお願いし、生徒が学習習慣を定着するように学習に取り組む環境を整える。 地域との懇談会を定期的実施し、運営協議会だよりを発行するとともに、PTAに投書箱の活用を呼びかけ、支援ボランティアを見つける 災害対策を含め、学校と地域との協力した活動を開催し、地域との共通理解を深めていく。 学校からいじめ問題をなくすために、投書箱の設置についてPRしていく。
	城山中学校	10回 学校の公開行事に地域住民が関心を持ち参加できる環境整備。 問題行動、特に不登校生徒の保護者ならびに担任・校長先生と情報を共有し学校復帰を促す。 地域や保護者のクレームがある場合は協議会で地域・保護者と接触し、充分傾聴した上で納得できる解決策を提案。	合唱祭は地域の方も多数参加した。 保護者と担任と情報を共有し連携して本人・保護者と対応した結果、不登校生徒数名のうち1～2名は登校するようになった。 何回もあるクレームについては、協議会も対応に参加した結果、ある程度沈静化した。	学校行事のチラシを地域に配布するタイミングが遅かったため集客が少なかった。 問題行動を起こす生徒が出た場合、どの時点で学校運営協議会が支援したらよいか明確な取り決めがない。 クレームに関する情報を学校側が協議会に開示するルールもタイミングも明確でないため対処が遅れたり長引くことがある。	今後、学校行事のチラシの配布時期を開催日の30日前に配布する。 小学校とも情報を交換し事前に実態を把握し、改善策を保護者、担任、校長先生と相談しながら対応する。 学校側と連携しながら保護者会には学校運営協議会委員も出席し顔を知ってもらった上でクレームにも対応できることをPRする。
平成21年度指定	桐田小学校	11回 学校運営協議会の活動を地域住民に広く周知し、活動者を増やす取り組みを実施。 運営協議会事務局(教員)を増員し、全教職員の協議会への関わりを深め、参画意識の向上及び地域行事への教職員の参加率の向上を図った。	地域住民の参加率が増えた。 毎月の運営協議会へ参加することにより、学校運営の核となる教員が、地域の声を直接知ることができ、日常の教育活動実践の工夫につながった。また、全教員が全体会に参加することで、地域の要望、学校からの要望(協力依頼等)を互いに知ることができた。	さらに積極的なアピールをするために、「桐小コミュニティ」の紙面内容を充実する必要がある。また、年2回の全体会を通じて、新しいボランティア人材の更なる発掘が必要である。 全体会の参加者数は60名程度になった。(現状維持)取組についての情報を、さらに共有させ、教員の参画意識を向上させる。	組織の見直しを図り、幅広い地域住民の声を教育活動に反映させる学校運営協議会にしていく。 また、学校安全ボランティアだけでなく、種々のボランティアを、保護者・地域住民から募り、地域と学校の一体化を、教育活動を通して具体化する。 取組に対する広報活動の充実を図る。また、毎月の運営協議会への参加教員を見直し、参画意識を高める。全体会での学校職員の役割の明確化。
	中山小学校	12回 運営協議会委員全員を中心に、花壇やピオトープの維持など、学校環境の整備。 中山中学校区の3校(中山中、中山小、高嶺小)で、3校合同運営協議会を学期ごとに開く。 また、小中一貫教育として、学校公開日に小中合同で地域の専門家を招き、地域交流講座の開催。	季節ごとに花壇の花を植え替え、「花いっぱい」を印象づけることができた。また、ピオトープの水藻を定期的に取り、児童の観察に適切な環境を維持することができた。 防災・安全地域マップを3校が協力して作成し、各教室に掲示することができた。また地域交流講座では、児童・生徒が交流しながら体験学習を行い、好評を得た。	保護者の協力をもっと得ることが課題。 教員のさらなる意識の向上が必要。	委員を中心に、広く協力を呼びかける。また、学校ホームページに地域のページを作り、広報活動に力を入れる。 地域交流講座の準備において教員の分担を増やし、教員ひとりひとりが主体的に関わる。
	宮上小学校	12回 学校運営協議会、地域、保護者及び教職員との連携の強化。 教職員と学校運営協議会との連携を深めるために協議会だけでなく、学校の日常の姿を見るために学校行事等へ積極的に参加。 学校運営協議会の活動を啓発するために更なる情報発信の方法を工夫。 第5回八王子市多摩ニュータウン地域運営学校協議会を開催。	保護者や地域住民が登校時に関わることで、児童の心の拠りどころとなり、必要に応じて児童の様子を教職員と共有出来た。 学校行事への積極的な参加と管理職以外の教職員と協議会委員との交流会を開催することで、情報共有を行うことが出来た。 学校便り「みやかみ」に活動内容を情報開示した。 多摩ニュータウン地域の学校運営協議会の課題や活動内容を情報共有し、それぞれの学校運営協議会の今後の活動に役立てることができた。	管理職以外の教職員との情報共有に努力を行っているが、その機会が現状ではそれ程頻回ではない。 学校運営協議会委員公募を実施しているが、保護者や地域住民からの積極的な応募が少ない。	積極的に学校行事等へ参加し、管理職以外の教職員との連携をより強化する。 保護者会や地域の行事にも委員が積極的に参加し、顔が見える学校運営協議会の具体的な活動を広報する。

	開催回数	協議事項及び取組の内容	成果	課題	今後の取組
平成21年度指定	下柚木小学校	12回 本学では平成25年度末をもってPTAが解散したことを受け、PTAに代わり学校運営協議会を中心とした保護者によるボランティア活動の再構築。 学校運営協議会としての活動を保護者に報告し、協力を募った。	学校運営協議会の委員に本年度(平成27年度)から学校コーディネーターが加わることにより、一昨年度のPTA解散によりいったんは衰退した保護者活動が、心ある保護者の皆さんの協力によりボランティア組織の再構築が進んだ。 運営協議会としての活動を保護者に報告・協力を募ることで、成果を得ると同時に、地域代表枠で、地域代表者にも委員に加わってもらった。	PTAの解散に伴う保護者活動の再構築の組織化を引き続き進めること。 運営協議会としての活動を保護者だけでなく、地域の皆さんにも報告・協力を募ることで、なお一層の運営協議会の活動を周知する。	PTAの解散に伴う保護者活動の再構築の組織化を引き続き進める。 運営協議会としての活動を保護者だけでなく、地域の皆さんにも報告・協力を募ることで、なお一層の運営協議会の活動を周知する。
	第一中学校	11回 「生徒及び保護者の教育活動アンケート」の実施を通し、本校の教育活動の現状や課題の分析、具体的な進言を行った。 「基礎学力の定着」を進めるため、授業見学や教員との懇談会による意見交換会の実施。現状を正確に把握して具体的に進言することや、放課後学習や各種検定試験を支援をすることを話し合った。 地域と連携した総合防災訓練を実施した。	「教育活動アンケート」は当該年度とともに、直近の過去2年間の経年変化も分析し、改善策を進言した。また、保護者の自由意見を丁寧に確認し、助言を行った。 教員との懇談会を毎年実施し、意見交換を積極的に図った。また、「家庭学習の手引き」の再編集を支援し、家庭学習の定着を促進させた。 総合防災訓練では、1年「防災の講話、起震車や煙体験」の実施、2年「放水訓練、避難所開設訓練等」の実施、3年「AED操作、心肺蘇生法等の訓練」の実施を定着させ、協力団体(PTA、消防署、消防団、市役所等)との連携を支援した。	「生徒及び保護者の教育活動アンケート」の実施を通し、本校の教育活動の現状や課題の分析をさらに進め、具体的な進言をさらに継続して行う必要がある。 「基礎学力の定着」を進めるため、授業見学や教員との懇談会の継続実施。 総合防災訓練の運営主体を明確にして、生徒の体験内容の精度を高めること。また、保護者や地域住民との関わり方について、今後の方向性を明確にする必要がある。	「生徒及び保護者の教育活動アンケート」を6月と12月に実施する。アンケート結果は、過去の経年変化とともに公表し、教育活動の一層の充実を図る。 「基礎学力の定着」を進めるため、授業見学の実施(5月、3月)・教員との懇談会の実施(7月、12月)・教員研究授業の見学(時期は未定)・各種検定試験の監督者の募集を支援する。また、定期テストや各学力調査の内容を分析し、進言を行う。 「一中の防災を考える会」を中心に実施してきた総合防災訓練を実行委員会形式に改め、協力団体や保護者、地域住民とさらに連携を図りながら実施する。
	陵南中学校	11回 学校運営協議会委員を講師とした道徳授業の実施。 教員と学校運営協議会委員が連携した中学3年生に対する面接指導の実施。	学校運営協議会委員が、生徒と直接触れ合うことを通し、学校や生徒の実態をよりの確に把握することができた。 生徒が、教員以外の人物と面接をすることにより、緊張感を持って面接指導を受けることができ、進路の選択に有益であった。 教員と学校運営協議会委員が協力して面接指導を行うことを通し、共同で学校づくりを進めるための意識を醸成することができた。	講師と担当する学級担任との事前打合せの時間の確保。 教員と面接を担当する学校運営協議会員の事前打合せの時間の確保。(特に、面接項目の選定や、役割分担、採点基準の確認等。)	授業を受ける生徒にとっては、教員以外の人物と接する貴重な機会であるとともに、学校運営協議会委員にとっても学校や生徒の実態に触れる貴重な機会であり、今後も継続して実施する。 生徒にとっては、より実戦に近い緊張感の中で面接を受けることができ、貴重な機会となっている。面接時の確認事項をマニュアル化し、事前の打ち合わせを効率よく行う等の工夫で、継続して実施する。
平成22年度指定	第七小学校	11回 地域と連携した防災訓練の実施 学習ボランティアやゲストティーチャーの確保について	防災訓練の実施で、学校と地域が連携し、災害時への共通理解を深めることができた。 学習支援ボランティアやゲストティーチャーの活用で学習の充実を図ることができた。	防災倉庫に装備されているものの活用と児童参加の訓練が必要である。 様々な分野のボランティアやゲストティーチャーが必要である。	防災訓練については、児童も参加できるよう日程調整及び複数の町会にも声を掛け、連携を図る。 学校ボランティアの組織化を図る。
	館小中学校	11回 平成26年度に引き続き、発達段階に応じて4種類の「基本的生活習慣・家庭学習のすすめ」を作成し、家庭で掲示できるように配付した。 学校保健委員会に学校運営協議会委員の参加を依頼し、昨年まで1回だったものを2回に増やし、学校の保健指導の取組を公開した。 教育目標の取組に対する自己評価表を公表した。 地域合同防災宿泊訓練の実施。	発達段階に応じた「基本的生活習慣・家庭学習のすすめ」を家庭に掲示できるようにし、各家庭の教育力を高める一助となった。 学校保健委員会へ参加したことで、学校保健の取組や保健指導の課題を共有することができた。 自己評価表を委員に公開し、評価を得ることで学校運営への参画の意識が高まった。	家庭の学校に対する関心が薄く、学校公開や授業参観への参加率が低い。基本的生活習慣、学習習慣が身に付いていない児童への対応。 3回目となる地域合同防災宿泊訓練の参加率が年々低下している。	学校HPで学校運営協議会委員の方を紹介するコーナーを作り、毎回、学校運営協議会だよりを学校HPに掲載するなどして、家庭への情報発信の機会を増やす。 今年度は、中学2年生を主体とした地域合同防災宿泊訓練に発展させ、参加人数を増やす。

	開催回数	協議事項及び取組の内容	成果	課題	今後の取組
平成22年度指定	加住小中学校	「保護者相談メール」の実施について 学区内の防犯カメラの設置個所について 杏林大学の移転に伴う通学バス路線の変更について	保護者の声を直接学校運営協議会に届けることで、学校教育の課題を地域と一体となって考え、改善していく仕組みを作ることができた。 各町会からのスムーズな協力が得られ、防犯カメラを無事設置することができた。 連合町会から学校運営協議会を通じての働きかけにより、学校-市教委-地域の連携の下、児童生徒の登下校のバス便の確保ができた。	学校施設の改善調整。 データの利用・活用についての基準の明確化が必要である。 バス便の安定的な確保及び、学校選択への影響を調査する必要がある。	今年も継続して実施していく。 管理及び運用についての基準を明確にする。 児童・生徒の登下校の状況や家庭からの情報も取り入れながら、安心して登下校ができる体制を確立していく。
	愛宕小学校	学校アンケートの内容の精査 愛宕Campの実施 愛宕小学校地区放課後子ども教室の実施 漢字検定試験の実施 各種保護者向け講演会の実施 学校運営協議会便りの発行等	アンケートの結果から、児童や保護者の学校への想いを知る事ができ、自由回答欄に書かれた保護者からのご意見について話し合い返答文を作成する過程で学校運営協議会の役割を再認識する事が出来た。 親子での宿泊活動を校内で行う事で、保護者の結びつきが活発になった。 保護者からイベント企画が提案されるなど、自主的に小学校と関わる機会となってきた。	学校独自のアンケート項目も含め、質問事項の数を厳選して減らす事を検討する。 メインスタッフを固定メンバーだけでなく、新しい保護者を取り込む活動の実施。 イベント内容について、保護者からの提案を受けられるように工夫していきたい。	家、地域及び学校が連携を強め、一層の支援をしていくように意識を向上させる。 愛宕小学校の児童に「生きる力」を身に付けさせる為に、地域住民の潜在能力を活用推進する事で、子どもを取り巻く地域環境そのものを向上させる。
	浅川中学校	ボランティアによる学校支援活動（漢字検定、授業支援、環境支援、放課後補習支援、学校図書館支援など） 年間2回の学校評価アンケートと授業評価の実施・分析・提言。 浅川小学校運営協議会との合同の取り組み（あいさつ運動、スマホ使い方教室） 生徒会との懇談会、部活動支援プロジェクト、学校運営協議会だよりの発行、ホームページへの掲載など	生徒の要望や願いに応えることで、生徒が希望と意欲をもって学校生活を送っている。 学校評価を学校運営協議会が実施することで、客観的な分析ができ、校長の学校経営を支援できている。 教職員と学校運営協議会、ボランティアの協働体制が構築され、充実した学校運営ができています。	次の学校運営協議会を担う後継者育成。 保護者のボランティア登録が少なく、地域人材に頼らざるを得ない状況である。	現在取り組んでいる活動の維持・発展。 SNS浅川中ルールを生徒会と学校運営協議会合同で作成。 英語検定の実施に向け、情報収集及び検討。
	松木中学校	地域の祭りである「浄瑠璃祭り」を主催 地域防災会議の開催と、生徒との合同防災訓練を実施 夏季及び放課後の学習教室の実施 学校運営協議会だよりの発行による広報活動	浄瑠璃祭りに昨年度を上回る約1600名の参加があった。 地域防災会議を年間通じて7回開催し、合同避難訓練の実施などを通して学校と地域との防災活動を推進していくことができた。 放課後学習教室は講師を確保し5教科で実施することができ、学力向上に寄与した。 広報誌「学校運営委員会だよりの」を3回発行し、保護者や地域への学校運営協議会の意義や取り組みを広報することができた。	浄瑠璃祭りのより一層の発展に向けた、組織及び運営方法の改善 松木小、長池小学区の地域防災組織を含めた、総合的な地域防災体制の確立と活動の実施 学習教室講師の安定的な確保と質の向上 地域・保護者の理解を広げるための広報の一層の充実	学校運営協議会組織を見直し、地域支援本部を組織内に新設する。また学校コーディネーターに学校運営協議会委員に入ってもらい、連携をとる。 地域支援本部の下部組織として学校支援ボランティアを新設 夏休み及び放課後学習教室の英語科講師の増員 各学期毎に松木中学校運営協議会だよりを発行し、活動内容や地域支援ボランティア募集なども告知していく。
平成23年度指定	長房小学校	地域運営学校が関わる行事、地域夏祭り（盆踊り）、CS子ども夏祭り、算数教室、人形劇等について協議した。 長房ファームでの野菜作り。	各行事では、地域・保護者・学校がしっかりと連携した取組が実施できた。地域夏祭りやCS子ども夏祭り、算数教室など児童の参加人数が増加した。 地域の夏祭りに地域運営学校として出店し、広報活動につなげた。広報誌「山椒」を年4回発行し、地域内にも配布した。 長房ファームで収穫した野菜を給食食材として提供した。	地域・保護者・学校との連携の密にして、スムーズな企画運営。 畑ボランティアの参加人数増加。	これまでの連携した取組を教職員の異動があっても、継続実施できるように資料を作成していく。顔の見える連携を目指して今後の活動を行う。 保護者の参加が増えており、地域・学校・保護者がつながる場として今後も連携して取り組んでいく。

	開催回数	協議事項及び取組の内容	成果	課題	今後の取組
平成23年度指定	柏木小学校	11回 おはようコミュニケーションデー（学運協主催の挨拶運動）を毎月第一水曜日に実施。 学運協委員と教職員、保護者、地域住民との交流会「しゃべってみよう」を年2回開催。 南大沢小、南大沢中の学運協との協力のもと、南大沢自主防災組織の運営。	おはようコミュニケーションデーの継続実施により、自主的に挨拶をする児童が増えた。 学運協の組織や役割について教職員、保護者、地域住民の認知度が向上した。 3校合同で、避難所開設をシュミレーションした総合防災訓練の実施。	登校時の通学路見守りボランティアの減少。おはようコミュニケーションデーの前日には、「まちCOMIメール」でお知らせしているが、マンネリ化しつつある傾向がある。 「しゃべってみよう」の時間の確保。教職員の中には、コミュニティスクールについての理解が浅く、学運協と関わることの意義を見出せない者もいる。 総合防災訓練に参加する人数が少ない。休日に訓練に参加するということに抵抗がある住民もいる。	まちCOMIメールに加え、「ちらし」作りなどを予定している。 引き続き「しゃべってみよう」は開催する。 ちらしを作る等、案内の仕方を工夫するとともに、訓練の内容も興味深いものを考えていく。
	南大沢小学校	10回 学校の問題・課題を教職員と学運協委員や評議員がともに話し、考える場を設定。学校ではどんな支援を必要としているか、必要な支援に学運協委員がどのように応えていくか明らかにしていく。 学運協と学校コーディネーターが中心となり地域住民等の教育活動への幅広い参画を促進し、学校と連携しての人材開発を行う。	学校は地域のものとする考え方が浸透してきた。 地域内及び学校と地域の連携が強化された。	地域住民等の教育活動への参画。 学運協と学校コーディネーターが中心となった学校と連携しての教育的人材育成。 取組状況を多くの人に発信することで、小規模校での学校教育の利点を理解してもらい、児童減少に対応。	引き続き、教職員が直接学運協委員と話し合う場を設け、学校の課題を共有した上で、地域の教育的資源の発掘と学校教育への参画を促進する。 ホームページや広報誌等を活用したり、学校説明会・新1年生保護者説明会で学運協が、学校の魅力となることを周知していく。
	松木小学校	11回 漢字検定実施・放課後学習教室実施・授業支援等の学びの支援。 地域祭り運営・まつぎ会、おやじの会との連携・あいさつ運動・3校（松木小・長池小・松木中）合同協議会・避難所運営・防災訓練等の地域連携。 協議会だより発行による活動内容の周知。	漢字検定を年2回実施、放課後学習・夏休み学習会を実施、授業支援やゲストティーチャー、特別支援等ボランティアが年間ですべ1466人が活動、保護者地域を中心に活動する機会が増えた。 3校合同学校運営協議会主催の「浄瑠璃祭り」は、PTAや各町会・自治会、各種団体等と連携し、コミュニティの活性化につながった。また、PTAまつぎ会との合同協議会や傍聴者の呼びかけを行い情報共有・交換が図れるようになった。防災関係では避難所運営会が立ち上がり自主的に活動できるようになってきた。 通信を2回発行し、地域へ配布し、活動内容の啓発が図られた。	支援の流れをスムーズにするためコーディネーター窓口一本化をさらに周知徹底する。協議会委員だけでは限界があり、今後人材の拡充が必須。 保護者枠委員はPTA会長としているが、PTA会長が協議会に参加できる状況にあるとは限らないので、保護者枠の人選について、弾力的に考える必要がある。また、協議会委員が6年間を通して半数以上が固定化しているため入れ替えの必要性もあるが、一方で適任である人材の確保が困難な状況であるため、人材発掘する仕組みをつくるのが急務。 協議会の取組を周知するための広報専門の担当者が必要。	担当職員と授業や行事など年間計画で支援ボランティアの予定を立てる。 継続的な活動ができるよう、あらゆる人材の確保や3校で人材の共有、地域団体（塾）への声掛けも行う。 3校合同・PTAまつぎ会合同の協議会を継続して行う。 計画的な広報誌作成に努める。編集担当者の確保に努める。
	長池小学校	12回 青少対、寺子屋等との連携による地域行事への周知を広げる（ESD（持続可能な開発のための教育））。 ながいけ会、おやじの会とも連携した災害時の取組マニュアル作成。具体的活動に対して運営協議会の議論、共通認識をもつ。	松木中学校区3校（松木小・長池小・松木中）の運営協議会が主催する「浄瑠璃祭り」の開催により、多くの児童・地域住民が参加し地域活性化が図られた。また、生活指導の連携による取組も行うことができた。 災害時には、ながいけ会、おやじの会がまずは中心となって学校に参集することなどを決めた。保護者の意識は高まりつつある。	地域行事（浄瑠璃祭り）を含めて、更なる参加人数増加・地域の活性化。 保護者だけでなく、地域のマンション等との管理組合とも連携を深めていくことが必要。特に地域の自治会の担当者は年度で交代するため継続性が困難。	地域行事への取組をさらに進めるとともに、児童の学力向上や体力向上に対しても地域と連携した活動や取組を模索していく。 ながいけ会やおやじの会との連携を継続するとともに、地域の自治会や管理組合等への啓発活動を行う。
	南大沢中学校	11回 学校運営協議会の委員が学校の教育活動を知る機会を多く作り、学校を支援するとともに、学校に積極的に関わろうとする地域住民を増やす。 「おはようコミュニケーション係」「しゃべってみよう係」「コミュニケーション通信係」に分かれて、地域と学校をつなげる活動を行う。	学校便りを地域の回覧板に入れて回覧することが定着した。「しゃべってみよう」では、中学校3年生と地域・保護者の方が一緒になり、「よりよい南大沢地区を作るための取り組みを考えよう」というテーマで話し合いを行うことができた。 学校運営協議会の委員が、学校のことをより知って支援をしていこうという意識を強くもち、多くの学校の教育活動に参加した。	学校運営協議会の委員を中心に、学校の教育活動に関わる人材の発掘を進めること。 学校への支援の組織的な体制をつくること。 学校の教員が学校運営協議会に関わる機会を作っていくこと。	学校運営協議会の委員を中心に、学校の教育活動に関わる人材の発掘を進める。 学校への支援の組織的な体制を作る。 学校の教員が学校運営協議会に関わる機会を今まで以上に作る。

	開催回数	協議事項及び取組の内容	成果	課題	今後の取組
平成24年度指定	横山第一小学校	12回 学校運営協議会委員による学校の教育活動に対して意見を述べたり、提言を行うことで学校の様々な課題解決に参画。 児童の豊かな学びにつながる事業を企画。＜オータムキャンプ・どんど焼き・漢字検定＞ 学校運営協議会を、さらに保護者・地域に広め、支援者の拡大を図る。＜地域運営学校便り「よこいちスク コミュ」を年間12号発行＞	人事に関する意見調書を作成・提出するなど、学校運営協議会の意見を取り入れた学校運営を進めることができた。また、町会長・防災担当者との地域防災会議を開催することができた。 学校運営協議会が中心となって実施している活動を期待し、楽しみにしている児童が多い。 地域運営学校だより「よこいちスク コミュ」を毎月発行。	学校の教職員やボランティア等地域協力者も含めた組織化を図り、学校運営協議会を核とした地域協働の学校運営が必要。 地域行事等に受け身的に参加している児童が多い。また、「放課後子ども教室」における「学力向上」に向けた取組が、教室の確保等の物理的な環境面及び人的確保などにより、十分できなかった。 保護者のイベント等への参加率は高いが、協力し共に作り上げていく意識はまだ弱い。	校務分掌に「学校運営協議会」を位置づけ、学校の教職員を含めた組織作りを行う。毎回の学校運営協議会時に専門部会を開き、担当教員と学運協委員との話し合いの場を設定するなど組織的に進めていく。 「放課後子ども教室」の充実を図り、学校の教育目標と連携させた「学力向上」と「体力の向上」に関連した取組を行う。 学校コーディネーターを中心に、各種ボランティアの募集、連絡・調整等を行い、地域人材リストを作成し、活用の拡大を図る。
	上川口小学校	6回 学力向上について協働する教育活動について	地域人材の活用、サマースクールの実施、学運と学校の連名での家庭学習のてびきの配布ができた。 地域ボランティアによる読書活動、地域行事への児童教職員の参加、140周年事業を地域の協力と協働のもとに開催できた。	地域人材の効果的活用と計画的活用。ボランティアは多くても学校の教育活動の中で計画的活用は教科指導等内容で使用範囲が限られてくる。指導計画や打ち合わせ等の時間も必要であり、現状の状態では活用範囲が決まっている。 学校行事（運動会）へ地域住民の参加の声が出ている。	学力向上への取り組みを保護者、地域の協力のもと具体的な取り組みを進める。 地域住民参加型の学校行事を考える。自然や環境の学習を確かな学力が身に付くように工夫を図る。
	恩方中学校	9回 学力向上 教育環境の整備	学校運営協議会が主催し、地域人材を活用して12月より「放課後基礎教室」を試行として立ち上げた。予想を上回る参加者と実施回数を確保できた。 教育環境を整備するために、夏季休業日中に学校運営協議委員と教職員、生徒が特別教室のワックス掛けを行い、連携した活動が実施できた。	地域人材の発掘と使用教材の確保	「放課後基礎教室」については本年度も継続して開催していく。地域への呼びかけを行い、より多くの人材を確保して、「放課後基礎教室」の取り組みを軌道に乗せる。 教育環境の整備。地域と学校及び生徒が協働する活動の継続実施。
	由木中学校	11回 放課後の図書室を開放し、保護者のボランティアによる自習室とし学習の場とした。 学校運営協議会委員による授業見学を実施し、個々の教員の状況を把握及び個別のアドバイスを実施した。	地域の方が放課後図書室を利用し、英会話教室を開催。生徒たちの英会話に対する興味・関心が高まった。 学校運営協議会委員による授業公開で2回、道徳授業公開で1回の各授業を見学し、各教員に多くの助言をいただき、授業改善に役立てられた。	放課後、部活動に参加する生徒が多いため図書室を利用する生徒が極端に少ない。部活動に影響がない補習の在り方を考える必要がある。 学校運営協議会委員による授業見学の時間及び回数の確保。	学校の情報や学校運営協議会の活動を周知。 学校と地域の人材の活用を促進。 保護者・地域の方が学校に集まる機会（行事など）の構築。 学校を取り巻く課題解決のため、協議会委員が関わる専門部会を設置。
平成25年度指定	第二小学校	12回 12町会、八王子消防署、八王子市防災課と連携した防災訓練の計画及び実施 保小中連携の充実 学力向上をめざした放課後による補習学習の実施	10月に12町会、八王子消防署、八王子市防災課と連携した防災訓練を実施した。 小中連携の日において、近隣中学校と校内研究会を通して、学力向上・基本的生活習慣の徹底・教員の授業力向上について協議。また、近隣保育園職員との校内研究会での意見交換会及び話し合いを実施。 3学期に、学校運営協議会の委員による放課後補習学習を実施。	12町会、八王子消防署、八王子市防災課と連携した防災訓練の運営に、保護者も関わらせること。 小学校において育てたい児童、中学校において育てたい生徒とは何かを明確にし、小中が同一歩調で教育活動を推進すること。 年間を通した放課後補習学習を実施し、児童一人一人に確かな学力を定着させること。	来年度は、PTA本部と連携し、防災訓練の計画から参加させ、12町会、八王子消防署、八王子市防災課と連携した防災訓練を実施する。また、近隣中学校生徒にも防災訓練に参加させる。 校内研究会参加だけではなく、出前授業のさらなる充実を図っていく。また、保小連携においても、園児と児童の交流や運動会での園児参加競技の設定を検討していく。 学校運営協議会の委員を中心とした放課後補習学習の充実を図る。
	高倉小学校	11回 「あいさつ運動」の一層の充実を図るとともに、学校や地域内での児童のコミュニケーションや関わりを豊かにする。 学習習慣作りや学力の向上を願い、『漢字検定』を実施することとする。	「あいさつ運動」の取組が定着し、保護者の協力を継続して得ると共に、教職員の参画意識も高まってきた。登下校時に限らず、校内においてもあいさつが交わされる場面が増えている 「漢字検定」を今年度2回実施した。（10月・1月）合わせて120名以上の参加を得た。親子で受検する家庭も見られ、家庭学習の目標作りに一役買うことができた。地域からは多数の協力の方が参画くださり、新たな連携作りをすることができた。	「あいさつ運動」がまだ大人側主導で展開されている。児童が主体的に取組む活動となっていくよう工夫、改善していく必要がある。 「漢字検定」をより多くの児童が受検し、達成感や意欲を高められるよう、事前の学習や補習的な活動等を提供していくための支援体制を作っていく必要がある。	代表委員会が中心になって「あいさつ運動」を進めていく体制を、特別活動部を中心に工夫し、進めていく。この取り組みを多くの保護者や地域の方に発信し、地域全体であいさつや言葉使いを考える。 運営協議会の組織として、「学習支援チーム」のような役割担当を作っていくための手順や具体的な取組みについて協議していく。

	開催回数	協議事項及び取組の内容	成果	課題	今後の取組
平成25年度指定	高嶺小学校	高嶺富士や花壇、池の手入れを年間を通して、計画的に行い、環境美化を通して、心身共に健全な児童の育成を図る。 算数の基礎的、基本的内容を確実に習得し、学力の向上を図るために、放課後補習教室「くすの木教室」を立ち上げた。 保護者や地域の方々話し合い等の活動に活用できるように「みんなの部屋」を作った。	各月に学校運営協議会委員、世話人会、北野台自治会、ボランティア等が連携して、高嶺富士、花壇、池の手入れを行い年間を通して、美しい環境の高嶺小学校を維持することができた。 全児童に、算数の診断テストを実施し、達成状況を把握し、児童が算数の基礎的、基本的内容を確実に定着させることにつながった。 保護者や地域の方々、集まって話し合う場として有意義に活用された。また、放課後補習教室「くすの木教室」の指導員の打合せの場所としても活用された。	限られた方々をお願いしている現状があり、より多くのお手伝いの方々の協力を得ることが必要。 「くすの木教室」を、どの学年も週2回の実施を計画していたが、指導員の人数が足りず、各学年週1回の実施となっている。 「みんなの部屋」をより多くの方々に活用していただくように、周知していく必要がある。	学校運営協議会の環境美化部を中心に、世話人会、北野台自治会、学校教育ボランティア、チョコボラ等と協働して、計画的に環境美化に取り組んで行く。 ボランティアの人数を増やし、「くすの木教室」の各学年週2回の実施を目指す。算数以外の教科についても検討していく。 今後も、「みんなの部屋」の活用を周知し、多くの方々に活用していただくようにする。
	ひよどり山中学校	本校の教育活動に対する理解と協力を図るため、学校行事への参観・参加等を学校運営協議会委員及びPTAと連携し、地域・町内会等に積極的に働きかけた。 学校コーディネーターと学校運営協議会委員との連携により、学習ボランティア等を募集、確保し、その活用等について充実を図るよう協議して取り組んだ。また、総合的な学習の時間に実施する農業学習の一層の充実のため教職員、農業アドバイザーとの連携、協力、打合せを行った。	年度末に実施した、学校評価アンケートや地域諸会議等の報告から、本校が地域運営学校として取り組む活動(ひよどり山音楽祭・青少対行事であるクリーン作戦等)が理解され協力関係が進んだ。 総合的な学習の時間に実施する農業学習では、学校運営協議会委員の働きかけにより、新たな地域からの農業アドバイザーの参加や、放課後の学習教室や授業等での学習補助ボランティア(技術科木工学習補助や国語科書写指導補助等)による支援が得られた。	地域行事との連携を進めるため教職員との打合せが必要になるが、教職員の勤務時間内に実施することが困難である。連携の在り方を工夫したい。 学力向上に向けた、放課後の学習教室への生徒の参加が時期により多い時と少ない時があり不安定である。学習教室の日時を年間計画に位置づけ早めに準備するとともに生徒への声かけを行うことが課題。	地域・学校運営協議会委員の方々と教職員との打合せ時間を設定し、取り組み行事や学習の充実のための手立てについて意見交換するなど、コミュニケーションの場を設ける。 学力向上に向け、定期考査前の放課後学習教室を年5回実施することを年間計画に予定し、学習ボランティアの確保と学習教室の運営の仕方を検討し、より充実するよう取り組む。
	由井中学校	自治会と連携して防災支援部会による避難所運営訓練と炊き出し訓練を実施。 地域連携部会では70周年記念行事への準備委員会を立ち上げ、素案を提案。	21の町会、自治会が連合して行った防災フェスタに由井中学校が参加し、防災意識の向上が図られた。地域貢献や行事への参加により、アンケートで由井中生の自己有用感が有意に高い結果となった。 地元企業等から物品の寄付をいただき、市内の希望する学校・施設にも提供した。	町会、自治会が連合して行った防災フェスタを由井中学校の学区の町会・自治会で継続していく必要がある。	由井中学区の町会・自治会が連合して行う防災フェスタを企画し、地域運営学校として参加する仕組みを作る。 70周年記念行事への準備を具体的に進める。
	中山中学校	「きれい」「まなび」「あんしん」「たいけん」の具体的な活動について 自己肯定感を育む「命の授業」の実施について 「東海道五十三次」原画展について	「きれい」・・・渡り廊下ペンキ塗り、立体花壇の整備、池の整備他を実施した。 「まなび」・・・英検、漢検、図書ボランティアを実施した。 「あんしん」・・・「安全・安心マップ」の作成、あいさつ運動を実施した。 「たいけん」・・・継続して花一輪の活動を実施、「美術セミナー」として、尾形光琳の「紅白梅図屏風」原寸大レプリカを用いて、授業を実施した。 「東海道五十三次」原画展を平成28年度に実施することができることとなった。	「きれい」・・・渡り廊下ペンキ塗りは生徒とも一緒に実施できていない。 「まなび」・・・地域人材バンクを3校(中山中、中山小、高嶺小)合同で活用できていない。 「あんしん」・・・「安全・安心マップ」は、もともになる地図はできたが、3校が異なっている。 「たいけん」・・・学校との日程調整が難しい。	「きれい」・・・池の掃除と花壇整備の日程調整と用務主事との連携 「まなび」・・・英検、漢検の対応。図書ボランティアを「まなび」に入れ、毎月活動報告をする。 「あんしん」・・・3校合同の地図を作成する予定。 「たいけん」・・・花いっぱい運動について、ボランティア部との活動を合同に検討。 「東海道五十三次」原画展の実施に向けて準備と地域への周知。
平成26年度指定	第五小学校	教育ボランティア活用における学力の向上 80周年記念行事や研究発表会の成功に向けての取組 地域防災訓練の平成28年度実施に向けての計画	学期末の補習では、地域の方に協力により、学力の底上げにつながった。 学校運営協議会の80周年記念行事実行委員会が、学校と町会・地域との架け橋となって運営を支えて、9月の80周年記念行事、10月の研究発表会、両日とも大成功に終えることができた。 学校運営協議会の地域部会が中心となって、平成28年6月25日の地域防災訓練に向けて計画を着々と進んでいる。	補習では、地域の方々に丸付け等のみ行っていたが、担任との情報交換を行う機会を設定していなかった。 次回開催時に役立てるため、周年行事、研究発表会等の後処理をしっかりと行うことが必要。 学校と共催することで、児童の参加は確保することができるが、地域・保護者の参加率を上げる方法を検討する必要がある。	補習終了後、担任との情報交換会を実施し、補習の運営についてや児童一人一人の学習の様子等、検討する機会を設ける。 後処理の計画を立て、次回にいかせるよう資料やファイルの整理を行い、誰に引き継ぐのか明確にしておく。 地域防災訓練の実施について、地域の回覧板や学校のホームページを活用する等、地域・保護者の参加率を上げる方法を検討する。

	開催回数	協議事項及び取組の内容	成果	課題	今後の取組
平成26年度指定	清水小学校	10回 児童の学力向上のために、補習の時間における学習ボランティアの活用。また、「家庭学習のススメ」を活用して家庭での学習を推進。漢字検定を実施。 月の生活目標であいさつについて取り上げて指導するなど、頻繁にあいさつについて指導した。	補習の時間に学習ボランティアの協力により、一人一人の児童に対し、丁寧に支援をすることができた。漢字検定には、予想をはるかに上回る150人以上が受検した。 学校全体であいさつに重点を置いて取り組んだ結果、6年生児童が交代で門に立ってあいさつを行ったり、代表委員児童が昇降口であいさつを行ったりするなど、児童が主体となったあいさつ運動を行うことができた。	家庭での学習時間の確保するための方策。 学校の登下校時におけるあいさつは、進んでできる児童が増えてきた。ただ、自ら進んで友達にあいさつができる児童は、まだ十分とはいえない。	授業の活性化と共に、学習ボランティアの増員を図って補習を行ったり、「家庭学習のススメ」を活用してさらに家庭学習を充実させたりする。 漢字検定を実施する。 学校全体で呼びかけると共に、保護者にも働きかけ、あいさつが進んでできるようにする。
	宇津木台小学校	9回 学校支援地域本部準備会の立ち上げに向けた協議と準備会の運営。 PTAの事業(防災講習会)や各ボランティア団体への支援(広報、イベントの側面協力)を行った。	学校支援地域本部準備会を兼ねることで委員の意識の共通化が図られ、次年度は支援本部として活動することが確認された。また、各ボランティア団体との意見交換を行い、次年度のに向けた具体的な活動目標を設定することができた。 PTA主催の防災講習会ではリーフレットの配布を通して活動の理解促進を図った。 放課後子ども教室の土曜イベント(サタデースクール)のフリーマーケットに参加し、例年以上の参加者を得ることができた。	学校支援地域本部と連携する教員が1名であったため、過重な負担となった。今後の活動の充実を図るためには学校側の組織改善が必要。 限られた活動への支援となった。活動予算も限られる中、予算確保の方策を含め、ボランティア組織への支援の在り方については今後さらに検討が必要。	学校組織を見直し、地域連携委員会を設立する。予定する活動に各学年が関わり、一つ一つ丁寧に検証しながら取り組んでいく。 活動の重点化を図り、次年度は図書ボランティアとベルマーク活動を担う人材を地域からでてもらえるよう各町会自治会との連携や広報の充実を図る。
	式分方小学校	9回 広報誌「につぶこみゆこみゆ」の発行(3回)。校門に「地域の風が行き交う学校 コミュニティ・スクール」看板を設置。CSマスコットの募集を行った。 夏休み体験教室「わくわくサマースクール」の開催。放課後算数教室、パソコン学習等学習支援ボランティアのコーディネート。	広報誌「につぶこみゆこみゆ」や校門のカラーの看板は地域の方々の目をひき、地域運営学校をアピールできた。 児童・保護者等からマスコット募集に、様々なマスコットが寄せられた。 「わくわくサマースクール」で地域の方々と子どもたちが交流し、地域との繋がりを深めることができた。地域の方々の指導に子どもたちの学習意欲が増した。	まだまだ地域の方々に、「地域運営学校」であることが知られておらず、保護者も趣旨を理解するに至っていない。 一部のボランティアに負担が集中していることもあり、幅広く、理解あるボランティアの募集が必要である。	広報誌の内容の検討(地域を目線の記事に)決定したCSマスコットを、様々なところで活躍できるように取り組む。 地域運営学校であることをPTAと連携して、保護者へアピール。 地域人材の掘り起し(地域の人と人との繋がりに)
	由井第三小学校	11回 学校運営協議会のPR活動 授業参観等への参観実施及び地域の安全・安心確保 児童の学力(日本語検定)・体力向上 夢大地の取組の一層の充実 日本の伝統・文化の良さを発信する能力・態度の育成事業を推進し、地域伝統芸能習得活動を充実させた。また、「ふるさと小比企・片倉 夢大地」の制作に着手することができた。 児童の主体的な挨拶 挨拶標語を作成し、町会等の掲示板に掲示していただいた。また、児童会主催の挨拶キャンペーンを実施。	活動の良さなどを、広く保護者や地域住民に周知することができ、協力体制も一層高まりつつある。 学校運営協議会委員が授業参観する回数や種類を増やし、本校児童・教職員の実態を共有することができた。また、子供たちの登下校時の安全確保につなげることができた。 全校朝会を活用し、学校運営協議会長からの認定証授与等も行い、次年度以降の受検意欲を高揚させることができた。読書活動が活性化され、児童の語彙数、文章力及び創造力が向上しつつある。 小比企・片倉の豊かな自然、伝統文化理解につながる教育活動が更に充実でき、総合的な学習の時間を中心に児童の探究力の伸長につながっている。 児童だけでなく、教職員・保護者・地域住民が一丸となって元気のよい挨拶ができるようになりつつある。	学校運営協議会が学校と協働体であることの周知。 委員による校内授業研究への参加については、会の進行方法を改善するなど、協働型授業研究としての充実を目指していく。 日本語検定に対する広報活動を一層強化し、受検者数の拡大する。 教員の異動や地域支援者の動向に左右されない持続可能な取組にしていく。 児童が、本校教職員以外の保護者・地域住民にも、主体的な挨拶ができるように指導、啓発。	～ については、基本的に継続実施する。

	開催回数	協議事項及び取組の内容	成果	課題	今後の取組
平成26年度指定	横山中学校	10回 学校の様子や生徒の実態を知り、学校力の向上に繋げるために、学校運営協議会委員が年2回の授業観察、教職員との面談を行った。 地域の様子を知り、生徒の育成のために地域との協力、連携、理解を推進するために、民生・児童委員との懇談を行った。	学校運営協議会委員と教職員が直接対話することで、生徒の実態や教職員の現状を知ることができた。 民生・児童委員との懇談で、地域の子どもの様子や、横山地区の現状を話し合える場となり、地域の力を活かし、より良い環境を目指すきっかけとなった。	教員数も多く、面談の時間も短いため、面談が十分行なうことができなかった。 民生・児童委員との懇談会は有効であったが、懇談会の回数を増やしたり、よりよく連携する工夫が必要。	学校力、生徒の育成力を高めるためには、教職員の意識向上、実践力が不可欠である。学校運営協議会として、教職員の力となる協力体制を取る。 地域で子どもを見守り、育てるが大切であるため、横山中学校を地域コミュニティの中心となるような活動を行う。
	川口中学校	11回 生徒の学力向上について、学校運営協議会ができることを検討し、具体的取り組みについて案を出す。 支援部の活動を推進するため、下部組織（川口支援の会）を作った。 開かれた学校を一層推進する。	学校が現在取り組んでいる学力向上のための取組が明らかになり、委員の理解が進んだ。 ボランティアの下部組織「川口支援の会」が組織されボランティアによる活動が行われた。 6つの大人の教養講座を開設し、2年間でのべ2000人の地域の方に講座に参加してもらうなど、気軽に利用できる中学校として、認知されるようになった。	学力向上についての取り組みがはっきりわかる成果として現れていない。生徒に還元できる確かな取り組みには至っていない。 ボランティアが組織されたばかりで、今後の継続・発展的な取り組みに至っていない。どんなことをいつまでにやるのかを決め、実践していく必要がある。 今後さらにどのような活動につなげていくのか検討する必要がある。	学校を、落ち着いた学習環境を整えることで、学力向上につなげていく。 校舎内の環境美化に関わる活動を実践していく。 支援部と共働して取り組んでいく活動を考える。 各種検定の実施について検討。
平成27年度指定	緑が丘小学校	10回 教職員、保護者、児童及び地域住民を合わせた千2,3百人の人数を対象とする合同防災訓練計画の立案。 学校ボランティアの活動の理解。学校内で活躍する多くのボランティア活動については、説明を受けたり、各委員が認識している事柄を協議したりして検討を行った。	消防署の支援・協力を得て晴天時、雨天時の場合も含め訓練内容(場所、項目等)を詳細に検討し、実施することとなった。 非常に精力的に活動している図書館ボランティア、熱心ではあるが、まだ規模の小さい授業ボランティア等、協議会が働きかけることにより、それぞれの組織が相互に協力しながら、更に効率よく機能することが出来た。	初めての合同防災訓練になるので、地域、保護者の参加率を高める活動が必要となる。 放課後子ども教室は、まだ実態が不明な部分もある。活用を図るためには、更に検討すべき必要がある。	学校だより、学校配布文書、地域配布文書を通して、合同訓練の開催の趣旨を周知し、参加を促す。消防署と連携して、救命訓練の実施を合わせて検討。 教職員と学校運営協議会委員との交流を図るための対話会等の設置に努める。次年度は、緑が丘応援団(仮称)を設立し、児童の学力向上への活動等が緒に就くことを期待する。そのため、積極的に教職員との対話が出来る場を設ける。
	長沼小学校	11回 学力向上、放課後の子供の居場所、防災教育の推進という3つの学校課題を明確にして、学校運営協議会の組織作りを行った。 漢字検定、放課後補習、放課後子ども教室の拡大、地域防災訓練の改善という4つの具体的取組の計画を立て、人材確保などの準備を進め、実施した。 本校の組織作りや具体的施策の実施のために、先進校の視察を行った。	学校運営協議会主催の漢字検定を実施し、地域ボランティアによる放課後補習教室も始動した。 町会、自治会で協議を重ね中学校とも連携して、中学生も参加した地域防災訓練を実施。	放課後補習については、さらにボランティアの募集を行い、対象学年を拡大していくことが課題。 放課後子ども教室の実施日を一層拡大し、放課後の子供の居場所を確保していくことが課題である。	地域ボランティアによる放課後補習を拡大していくために、保護者・地域にボランティアの更なる増加に取り組む。 学校運営協議会委員と放課後子ども教室推進委員が、放課後の子供の居場所の確保という学校課題について、共に考え、協働して課題解決を進める。 テーマコミュニティの考え方を取り入れ、保護者・地域住民と熟議を実施したりアンケート調査を実施し、今後の学校運営協議会の活動のテーマと方向性を一層明確にしていく。
	由木西小学校	11回 今年度より新たに学校運営協議会を設置した地域運営学校としての教育を保護者・地域に理解してもらうための手だてを具現化していくこと。 ア 学校運営協議会便りの発行 イ リーフレットの発行 ウ 由木西公開講座の実施 保護者や地域が教育活動に参画・協力できるような準備を整えることで、三位一体の学校作りを目指すこと。 ア 学校運営協議会がかかわる教育活動や日常活動の拡充 イ 由木西小オープンキャンパスの成功に向けた取組	学校運営協議会を設置する地域運営学校の認知度は7月と12月に実施した保護者アンケートの結果は90%を越える結果となりになった。 学校運営協議会がチームとして共に学び、考えを交流し、汗を流し合っていく活動を通して、学校運営協議会委員の意識も、発足当時の意識を変容させるに至った。各委員の参画意識の変容が大きな成果として捉えている。	学校作り＝地域作りという基本理念を具現化していくことが地域運営学校の認知を広げていくことになる。そのためにも、発信に加え、参加を促進するという主体的なかかわりを企図していくことが課題である。 保護者や地域には、学校運営協議会の活動を理解、協力してくれる方々も増えてきた。そうした方々を応援隊として位置付けて行くことでさらなる特色を創出する輪が広がっていく。学校作り＝地域作りという地域運営学校の価値を具現化していくために、こうした応援隊作りに力を入れていくことが課題となる。	今年度の取組を指標にして到達目標を設定し、成果と課題が明らかになる自己評価活動を行う組織作りをしていく。 その価値付けを平成28年度当初の定例会で確認し、上記の組織作りを行う中で学校コーディネーターをリーダーとした分掌を組織の中に位置付けて取り組んでいく。

	開催回数	協議事項及び取組の内容	成果	課題	今後の取組
平成27年度指定	高尾山学園	9回 特色ある教育である年6回開かれる学園四季祭に関して、年間を通じて協議を行いあるべき姿の方向性を検討した。 保護者の意見を吸い上げ保護者力を高めるための施策などの協議を行った。	学園四季祭の各行事について理解を深めることが出来た。また地域の協力などが得やすくなるよう人材バンクの仕組みを検討し立ち上げ準備が完了した。 保護者室の整備の他、保護者への呼びかけや保護者と話す会を企画し一定の成果をあげられた。	学園四季祭など学校行事は様々な人の関わりが必要だが途に就いたばかり。また”高尾山”を意識した取組も必要。 保護者力を更に高めるため、スーパーバイザー的な人を探し保護者とのグループワークを行うなど具体的なアプローチが必要。 活動全体を通じて教員との接点が少なく情報を互いに交換できていない。	人材バンクを機能させるため、学運協で検討するだけでなく具体的なアクションにつなげていく。 グループワークを行うための人材を発掘し体制を整えスタートできるよう推進する。 教員とのグループ面談など学運協メンバーとの接点をもち互いに距離を縮められるよう工夫改善する。
	栲田中学校	11回 基礎学力の定着・学習の習慣化を図るため、学校運営協議会としてどのように関わるか。 栲田中学校学区（横山第一小、栲田小、緑が丘小、栲田中）の各学校運営協議会との連携。	学校運営協議会及び地域運営学校の周知により地域の目を学校に向け、学校支援等ボランティアの人材を発掘することができた。 栲田中学校学区4校の各学校運営協議会による合同会議の実施に向けて準備を進めることができた。	地域住民や保護者と学校の連携が一部に止まっている傾向があり、学校規模や基礎学力未定着生徒数から学習支援等ボランティアの人材数は未だ十分とは言えない。 栲田中学校学区4校の各学校運営協議会が共通して取り組み、学区の特色ある活動の具体策にまではまとめることはできなかった。	学校便り、学校運営協議会便り、学校ホームページ等を活用し、地域運営学校の趣旨や活動内容についてより積極的に周知する。 自校の学校運営協議会に加え、栲田中学校学区4校の各学校運営協議会による合同会議の設定は時間的な制約が大きいため、各学校運営協議会の開催数や委員数を精選し開催するよう努める。